

学校だより

Vol. 88
2010.4

奨学制度

学業・人物ともに優秀で、経済的に困難な学生は、選考のうえ、奨学金の貸与を受けることができます。奨学金には日本学生支援機構(旧日本育英会)の他に、地方公共団体・民間育英団体の奨学金があります。

日本学生支援機構奨学制度は、人物・学業が特に優れ且つ、経済的に修学が困難な学生に対し、無利子又は有利子で学費の貸与を行う制度で、校長の推薦を得て日本学生支援機構で奨学生を決定します。奨学金は、採用年度、自宅・自宅外通学で異なり、貸与期間は5年間ですが、成績不振や性行状況が奨学生として不適なときは交付が打切られます。種類

は、定期採用と定期外採用(家計急変時に採用)があり、日本学生支援機構からの通知があり次第、掲示等でお知らせします。借用額は、定めた期間内に返還しなければならず、返還を怠ったときは延滞金が科せられます。また借用額は相当額になるので、申請に際しては充分考慮してください。

その他の奨学制度には、福島県、いわき市他市町村、戸部育英会、あしなが育英会、交通遺児育英会等の奨学制度がありますが、これについても、通知があり次第、掲示等によりお知らせします。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は家計・学力・人物について免除選考基準により、学生委員会で審議しますが、自宅謹慎処分を申請前の6月以内に受けた者、原級留置の者、修業年限を越えた者は、病气・留学など特別な事由があると認められた場合

を除き免除の対象にはなりません。

授業料免除の申請時期は、前期分は4月上旬、後期分は9月中旬になっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配布し、あわせて申込み締切り日についてお知らせします。なお、説明会の日程については掲示・放送および学級担任・専攻長からお知らせします。

奨学制度・授業料免除制度についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL: 0246-46-0734

行事予定(4月から7月)

4月

- 2日(金) 開寮
- 4日(日) 入学式
新入寮生歓迎夕食会
- 5日(月) 始業式
新入生オリエンテーション
定期健康診断(5年・専2年)
専攻科ガイダンス
- 6日(火) 前期授業開始
- 9日(金) クラブ紹介

- 14日(水) 第1回TOEIC-IP試験(5年・専2年)
1年生対象学力テスト(英語・数学)
- 15日(木) 定期健康診断(臨時休講)
- 21日(水) 基礎学力標準試験(化学)
(3年生対象、コミ科除く)
寮防災訓練(1年)
- 24日(土) 新舞子ウォーク(寮耐久レース)
- 27日(火) 開校記念日
- 28日(水) 学生総会
- 29日(木) 公開授業

5月

- 10日(月)~14日(金) 専攻科推薦入試・社会人入試願書受付
- 12日(水) 全校・校外清掃日
基礎学力標準試験(数学)
(3年生対象、コミ科除く)
- 19日(水) 後援会総会
春季学級懇談会
寮保護者会
- 21日(金) 専攻科推薦入試・社会人入試
- 24日(月)~6月4日(金) 前期中間試験期間

6月

- 7日(月)~11日(金) 専攻科学力入試願書受付
- 9日(水) 第2回TOEIC-IP試験(4年・専1年)
- 18日(金) 専攻科学力入試

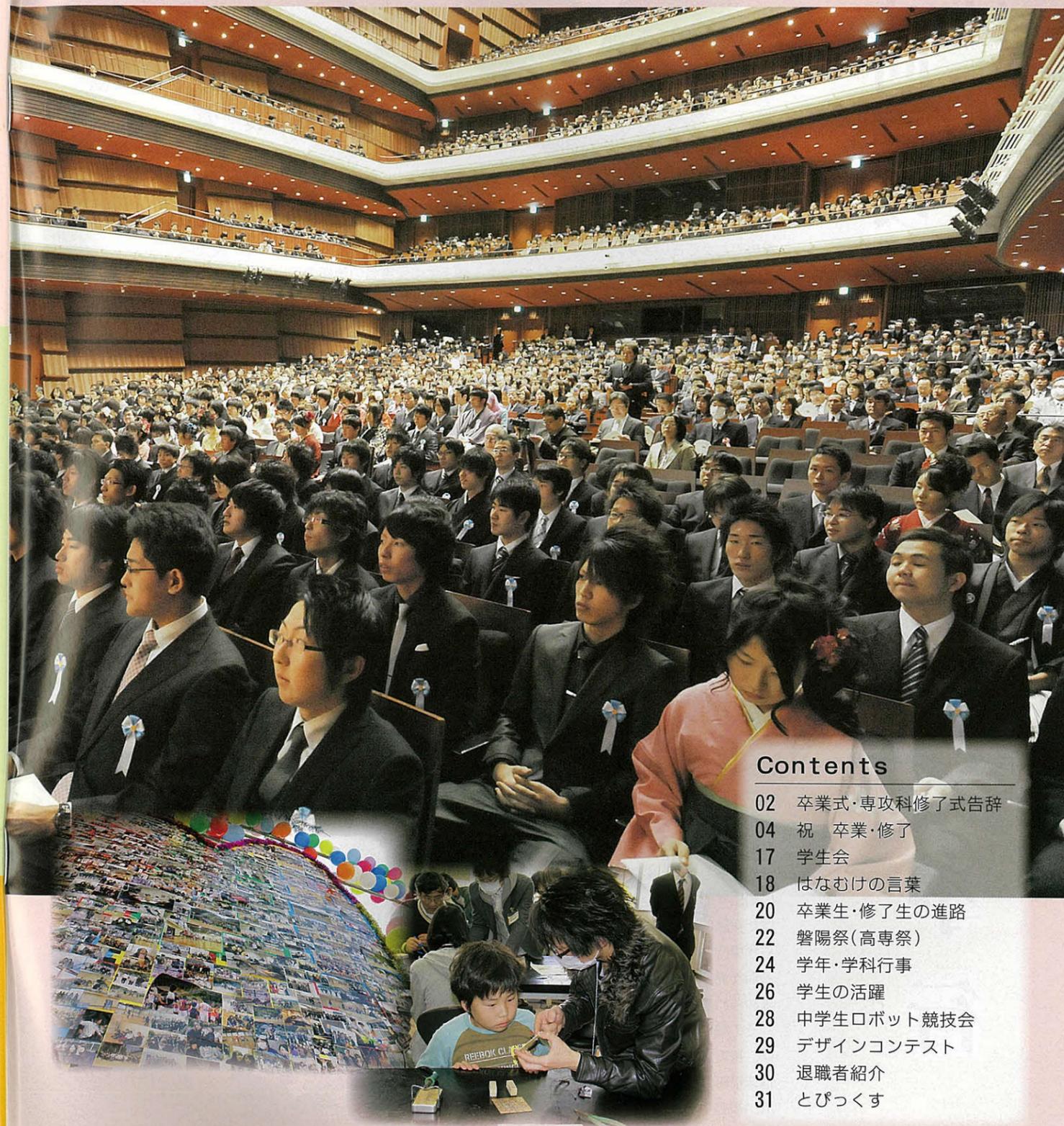
7月

- 2日(金) 学生臨時休業(開校記念日振替)
- 2日(金)~4日(日) 東北地区高専体育大会
(八戸・鶴岡大会)
- 20日(火) 月曜授業振替
- 21日(水)~23日(金) 編入学(推薦)願書受付
- 23日(金)~29日(木) 前期期末試験
- 30日(金) 編入学(推薦)試験
- 31日(土) 寮大掃除

編集後記

今年も卒業式、そして入学式と春の大きなイベントが無事終了致しました。今号では卒業式について記事に致しましたが、感動的であった卒業式の雰囲気が少しでも伝わる誌面になっていれば幸いです。次号では入学式についてお伝えします。さて、本校では現在のホームページを若干変更し、より豊富な情報を皆様にお伝えできるように作業を行っております。保護者の方へ情報発信するページや学生の活動を学生の目線から発信する学生会のページなどが追加されます。本誌が皆様の元へ届く頃には更新されておりますので、是非ご覧下さい。

広報委員長 篠木 政利



Contents

- 02 卒業式・専攻科修了式告辞
- 04 祝 卒業・修了
- 17 学生会
- 18 はなむけの言葉
- 20 卒業生・修了生の進路
- 22 磐陽祭(高専祭)
- 24 学年・学科行事
- 26 学生の活躍
- 28 中学生ロボット競技会
- 29 デザインコンテスト
- 30 退職者紹介
- 31 とびっくす



第5回専攻科修了証書授与式 第44回卒業証書授与式

挙 行



告 辞



福島工業高等専門学校長
奈良 宏 一

修了生、卒業生諸君、修了・卒業おめでとうございます。また、保護者・ご家族の皆様、大変おめでとうございます。

本日、ここに、多数のご来賓と、卒業生・修了生の保護者の皆様のご出席をいただき、第5回専攻科修了証書授与式並びに第44回卒業証書授与式を実施できますことは、教職員一同、誠に慶びとするところでございます。本日、ご多用中にもかかわらずご出席いただきましたご来賓の皆様ならびに保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本日、本校を巣立つのは、専攻科の、機械・電気システム工学専攻8名、物質・環境システム工学専攻9名、ビジネスコミュニケーション学専攻2名の専攻科修了生計19名、並びに、本科生として、機械工学科34名、電気工学科44名、物質工学科41名、建設環境工学科40名、コミュニケーション情報学科38名の計197名です。本科卒業生の中には3名の留学生が含まれています。本年度も、専攻科修了生は、全員、学士の学位を授与されています。

卒業生・修了生の保護者並びにご家族の皆様には、本日ご卒業のお子様をこのように立派に育て上げられましたご苦労に敬意を表し、心からお祝い申し上げます。誠にありがとうございます。

卒業生・修了生の諸君、諸君が本日の卒業式を迎えることができたのは、諸君が日々精進を重ねた結果であり、その努力に敬意とお祝いの気持ちを表したく思います。また、今日の諸君があるのは、諸君を育てるために、絶え間なくそそがれてきたご家庭の皆様の愛情と、昼夜をいとわず指導していただいた教職員の努力があったからでもあります。そのことを忘れずに、本日、改めて、諸君を育ててくれたまわりの皆様に、感謝の気持ちを持っていただければと思います。

さて、これから諸君が船出していく日本の社会は、まだ、不況の荒波が治まってはいません。この4月に諸君と共に就職する予定の大学生の就職率は、2月現在で過去10年で最低の80%と報道されています。今、諸君を迎える日本社会は、多くの仲間が就職することさえ難しい、厳しい経済情勢にあります。世界に目を向けると、民族対立、宗教対立、国際テロ組織など紛争の火種がつきず、また、大国の財政危機も報道されるなど、国によっては黒風白雨の状況と言えます。すべてがグローバル化した社会では、世界のどこかで発生した小さな事象が世界全体の経済や社会に大きな影響を与える不安が、常に、あります。このような社会に船出する諸君は、本校で身につけた実践的・創造的な実力を、自らが専門とする分野で、余すところ無く発揮することをすぐにも求められます。

その場合の行動において、諸君は、身近な事象はもちろんのこと地球規模の視点で物事を見る目と、広い視野での判断力が重要であることに思いを馳せるべきです。例



福島工業高等専門学校 専攻科修了証書授与式 卒業証書授与式



えば、地球温暖化予防の議論は、自分の周辺への多様な影響はもちろんのこと、広い視野で、地球全体のさまざまなキャパシティを考えずには議論できないことはご存知の通りです。本校を卒業する諸君は、広い教養と豊かな人間力、実践性に裏打ちされた探求心、洞察力、創造力、さらには、十分なコミュニケーション能力と国際的な視野を身につけているはずで、これらの力を基にして、自己の利益ばかりを考えるのではなく、グローバルな視点と広い視野を持って行動して下さい。また、全体が良くならなければ自分も良くなれないという発想に立って、世界の中での日本や自分の在り方を深く考えながら、より良い世界、より良い日本、より良い地域、そして、より良い自分をつくる努力をしていただくことを期待します。

次に、諸君は、現代の社会で必要とされる技術の多くが、大規模化またはシステム化された、複雑な大型技術であることを学んできました。例えば、小さいモノでは分子単位またはナノメータ単位の微細技術による大規模集積回路などからはじまり、コンピュータ、ロボット、自動車、航空機、超大型システムでは宇宙ステーションに至るまで、どれ一つをとっても、一つのモノを一人では作ることができません。何人もの関係者が力を合わせて、はじめて、一つのモノが完成するのが普通です。このような時代の技術者に要求される能力は、高度な専門的知識や幅広い分野の技術力に加えて、高いゴールに挑戦する意欲、チームワーク力、または、最終製品の目的や機能を十分に理解した上で自らの役割を果たす能力などです。さらに、競争に打ち勝つためには、次々にイノベーションを起こす必要があり、広い知識を駆使したイノベーション力も備えなければなりません。このような能力は、現在の諸君には、まだ、必ずしも、十分に備わっている能力ではありません。実務経験を積みながら、自己啓発を続ける中で醸成されていく能力です。本日は、諸君がこれらの能力を磨くためのスタートラインにすぎません。明日から、諸君は、世界に通用するエンジニアやビジネスマンとなるべく、自らの能力をさらに高めるための自己啓発を続けていかねばならないこと、また、常に、技術者倫理または社会人としての倫理観を磨き続けていかねばならないことを忘れてはなりません。近い将来、諸君が、専門分野の十分な知識と倫理感に裏打ちされた創造性やイノベーション力を持つ、素晴らしい国際的なエンジニアまたはビジネスマンとして社会で活躍していることを期待しています。

諸君のこれからの人生は、順風満帆な日々ばかりではありません。さまざまな辛苦もあることかと思えます。しかし、諸君は、あらゆる難問・難題を克服して自らの人生を切り開くことを出来るだけの力をこの福島高専で得ています。自らに自信を持って、健康に留意し、素晴らしい明日に向けて邁進して下さい。

最後に、諸君の幸多き人生を心から祈念して告辞と致します。

平成22年3月18日





機械工学科

Department of Mechanical Engineering

卒業おめでとう

機械工学科 5年担任 篠木 政利

卒業おめでとう。

5年という長い期間をかけてようやく辿り着いた「卒業」という一つの区切りに、達成感や充実感といったものを感じていることでしょう。ひとまずこの喜びを両親や友達と分かち合い、次の一歩への原動力として下さい。

さて、皆さんは私が初めて担任を受け持ったクラスでした。私は低学年の授業を受け持っていないため、3Mの教室での最初のホームルームがほぼ初顔合わせで、名前と顔が一致せずに苦労しました。幸い1、2年に担任して頂いた宮澤先生の指導が行き届いており、クラスの雰囲気も良くスムーズに担任業務がスタートできたと思っています。それから3年間いろいろありましたが、あっという間でした。3年間を総括して5Mを語るとすれば、「活気」のあるクラスだったと言えるのではないかと思います。冷めたものの見方をせず、

何にでも熱心に取り組んでくれたように思います。時には元気が良すぎて脱線することもありましたが、今となっては良い思い出です。とても楽しく過ごさせてもらいました。ありがとう。

私は担任として皆さんには自主的に責任ある行動をしてもらいたいと常々願って指導してきました。できるだけ皆さん自身が行動するまで待ち、行動を始めたならあまり干渉しないようにしてきました。よく皆さんには放任主義だと言われましたが、卒業していく皆さんを見ると、ずいぶん大人になったと感じ安心しています。

最後に担任から、「勝手に帆を上げる」という言葉をプレゼントします。この言葉の意味を理解して、社会で活躍して下さい。もし、どうしても進退窮まったら、そのときはいつでも相談にのりますので、学校に遊びに来て下さい。

これまでとこれから

機械工学科 5年 菅野 拓郎

この季節は土と新芽が香り始め、春の訪れを強く感じられます。私にとっての春は「終わりに始まりへの季節」であり、これまでの自分を振り返ると同時にこれからの自分を見据える季節でもあります。

5年前の春、中学を卒業した私は期待と不安を胸にこの福島高専に入学しました。親元を離れた寮での暮らしは、慣れるまでが大変でした。学年が上がるにつれ交友の輪が広がり、多くの友人を得、支えられながら5年間を共に過ごしてきました。多くのことを経験し学びながらも、友人と過ごした何気ない日常、冗談を言って笑いあった日々を思い出す度に、例え様のない感情が込み上げてきて胸が熱くなります。

そしてこの春、卒業を迎え、桜が咲く頃には社会人となります。人生における新しい出発地点に今、たどり着いたということ強く意識し、直ぐそこまで来た未来に希望を持つことが出来ることを、心から嬉しく思います。

最後に、今までお世話になった全ての人に心からの感謝、「ありがとう」の言葉を送ります。そしてまたいつか会おうそのときまで。

「またね」

卒業するにあたり思うこと

機械工学科 5年 永峰 陽介

「福島高専ってなに?」、「何で5年間いるの?留年したの?」と聞かれたとき、私は、第三者から見た福島高専への認知度の低さに驚愕したものです。

私が福島高専に入学してからはや5年もの月日が流れました。寮生である私は、低学年のうち、世にも恐ろしい先輩から逃げ回って生活したものでした。特に、満開の桜の木の下で繰り広げた、麗らかで平和な風景にそぐわない、大声でのあいさつの応酬も高学年になった今では、いい思い出です。

入学してから、5年間。お世話になった先生方や、ともに生活してきた友達にはとても迷惑をかけてきました。1ヶ月後には離れ離れになってしまうのは、もの寂しいですが、またいつか、お互いについて語り合うことができる日を楽しみにしています。

「福島高専ってどんなところ?」今ならこの問いに胸を張って答えられます。「素晴らしいところですよ」と。

卒業生進路一覧

※ () 内は人数

- | | | | |
|--------------|---------------|------------|---------------|
| 福島高専専攻科 (5名) | 長岡技術科学大学 (5名) | 豊橋技術科学大学 | 岩手大学 |
| 山形大学 | 千葉大学 (2名) | | |
| 旭化成(株) | キヤノン(株) | (株)クレハ | (株)江東彫刻 |
| 東京電力(株) | 日本原子力発電(株) | 東日本旅客鉄道(株) | 日立交通テクノロジー(株) |
| 本田技研工業(株) | (株)前川製作所 | 明治乳業(株) | 森永乳業(株) |
| | | 山崎製パン(株) | 雪印乳業(株) |
| 株リコー | | | |



電気工学科

Department of Electrical Engineering

後輩たちへ贈る言葉

電気工学科 5年担任 山田 貴浩

「卒業おめでとう。」この言葉を君達に贈る日がとうとう来ました。

5年間、おそらくただひたすら突っ走ってきたという感じなのではないでしょうか。私自身の高専生時代を思い出してみても、高専での5年間ほど密度が濃く、あっという間に過ぎてしまった期間は他にないと思います。

初めてのクラス担任という立場で、私も3年間ひたすら突っ走ってきました。時には突っ走り過ぎたことや、逆に至らないこともあったと思いますが、それでも3年間ついて来てくれた君達には感謝しています。

ところで、君達はこの学校の変革の時代を過ごしてきましたね。2年生の時にはミニ研究の1期生として、立派に新しい道を切り開きました。4年生のモノづくり実習では、カリキュラムの変更に伴って基盤となる授業科目が入れ替わり、苦勞

も多かったと思います。そして5年生の卒研発表会は従来よりも1ヶ月早まった開催時期となりましたが、無事に発表できました。また、最後の1年間は電気工学科棟の変革（改修工事）のため、卒業研究では不便な思いをしたことと思います。

これから先、さらなる変革の時代を生き抜くことになるかもしれませんが、どんな時も自分を見失わず、前に進んで下さい。

それから、人に対する感謝の気持ちを大切にして下さい。君達のご両親・ご家族をはじめ、学校の諸先生方・事務職員の方々、友人、先輩・後輩、さらにはインターンシップでお世話になった企業の方々など、数え切れないくらい多くの人たちに支えられてここまで来たのだということを忘れて下さい。

最後に、時々学校へ近況を報告しに来て下さい。君達の更なる活躍を期待しています。

素晴らしき高専生活

電気工学科 5年 佐久間 広太

卒業するにあたって、今考えると、高専での生活は、これからの人生で経験することができない、私にとって重要で素晴らしき5年間だったと思います。高校生から大人になっていく時期に5年間という長い期間同じ学校で過ごすことは高専でしか経験することができず、おかげで一生活き合える友達を得ることができたと思います。

高専生活において、私の一番の転機は野球部に入ったことです。毎日の練習はつらく大変でしたが、みんなで1つのことに打ち込んで過ごした時間はとても素晴らしいものでした。野球部での経験は社会人になっても、忍耐力、コミュニケーション能力として役立っていきたくと思っています。

在校生の皆さんに伝えたいことは自分が打ち込めることを見つけてほしいということです。今しかできないことがたくさんあるので、やりたいことは迷わずどんどん挑戦してほしいです。そして卒業するときに泣いてしまうくらい、高専生活が充実していたと感じられるようになってほしいと思います。

最後に今までお世話になった先生方、そして、安心して高専に通わせてくれた両親に感謝致します。

今しかできないこと

電気工学科 5年 正木 俊幸

ふと何のために高専に入学したのか思い返してみると、自分は5年間バスケをやるために入学したと言っても過言ではないことを知り、焦りと同時に充実感が湧いてきました。

部活の時間に間に合わせるため、人並みの内容となるようにささっと実験のレポートを済ませ、授業中は部活のイメージトレーニングをし、家に帰ったら部活疲れで寝るという、勉強とは無縁の生活をしていました。電気工学科の先生方、今更ながらごめんなさい。

部活で忙しくて遊ぶ時間がないと思う下級生ばかりだと思いますが、引退した自分にとってその貴重な忙しさは、うらやましいの一言です。これは本当に引退した後に気付きます。部活以外にも学生時代ならではの「今しかできないこと」は山程ありますが、むしろ勉強する時間を割いてでもそれに全力を注ぐべきだと僕は思います。高専の先生方、ごめんなさい。ただし、テスト期間などやるべきことにメリハリをつけることは大切です。

数十年後、「あの時もっと勉強していればよかった」という後悔をしたとしても、「あの時部活に夢中になれてよかった」という満足な気持ちを感じていられれば、それはよほど立派で価値のあることだと思いますよ。

卒業生進路一覧

※（ ）内は人数

福島高専専攻科（7名） 仙台高専専攻科 長岡技術科学大学（3名） 豊橋技術科学大学
秋田大学 茨城大学（2名） 宇都宮大学（2名） 山梨大学 東京工業大学
東京農工大学 大阪大学 東京電機大学
㈱アトックス（2名） ㈱伊勢丹ビルマネジメントサービス 出光興産㈱
NTTコミュニケーションズ㈱ ㈱キヤノン 東京電力㈱（3名） 東新工業㈱
東北電力㈱（3名） テコム㈱ ㈱半導体エネルギー研究所
日立情報通信エンジニアリング㈱ ㈱ヒロエンジニアリング 富士通㈱ 武州製薬㈱
リンク情報システム㈱



物質工学科

Department of Chemistry and Biochemistry

チャレンジすることを忘れずに

物質工学科 5年担任 柴田 公彦

御卒業おめでとうございます。私が皆さんと同じこの福島高専を卒業してから15年がたち、こうしてクラス担任として卒業生を送り出そうとしていることに、時の流れのはやさを感じずにはいられません。ちょうど15年前、オイルショック以来の不況に晒されておりました。なんという巡り合わせか、皆さんはその時以来の不況に突然晒されることになりました。今、皆さんは厳しい社会に歩みだそうとしています。

トランプで配られたカードが悪いからといって何もせずにあきらめてしまったら、ゲームが成り立ちませんし、何の面白さもあります。悪いカードが配られても、何とか勝てる方法はないかと考えるからゲームが成り立ち、そして時にはそれで勝てるから面白いのだらうと思います。今回皆さんには不況というカード配られた訳ですが、大事

なのは与えられた状況(配られたカード)のなかでいかに過ごすか、チャレンジしていくかということだと思えます。その過程で、気づかなかった面白さを発見したり、千載一遇のチャンスに出会うかもしれません。自らもさらに強く成長しましょう。

気の知れた友人がまわりにおいて、大きな変化もなく5年間過ごしてきた教室はおそらく居心地が良いと感じていたことと思います。変化をあまり好まないように見えた皆さんにとって、そこから強制的に外に出される卒業は、新しいことにチャレンジするよい機会だと思います。不安もあるでしょうが、困難や失敗を恐れずに様々なことにチャレンジしてください。小さくまとまらず、大きく活躍されることを祈っております。ただし、健康にはくれぐれも留意してください。

寡黙に。されど激しく。

物質工学科 5年 遠藤 恭平

タイトルに挙げたのは我が福島高専ラグビー部の基本理念です！いかにも男くさい感じですが…なかなか奥が深い言葉だと思っています。「寡黙」とは無口ではない。不必要なことは口にせず、常に虎視眈々と構えることだ。「激しさ」とは縦横無尽に暴れることではない。障害に屈せずまっすぐ進むことだ。今はそんな風に解釈しています。ラグビーというスポーツの特性にぴったりあてはまりますし、何かを成し遂げるのに必要な姿勢を教えてくださいingようでもあります。この言葉を胸に5年間楯円球を追いかけ青春の汗を流し、ついに今年十数年ぶりの勝利を高専大会で上げることができました！

留年に怯えながら課題に忙殺される日々…。「自分にとって部活ってなんだ？」と、何度も考えさせられました。正直なところ、引退してもその問いに対する明確な答えは見つかりません。5年10年経てば収まりのいい表現が見つかるかも知れませんが…。今はただ一つ「やって良かった」という想いがあるだけです。5年も続けると意外と最後の感想はあっさりしたものです。しかし、たった一つの想いだけでも得られたことに充分今は満足しています。

5年間を振り返って

物質工学科 5年 四家 彩渚

硬式テニス部に所属していた私は、毎日の練習に大会、大会が終わったら実験レポートに定期テスト、テストが終わったらまた大会。ひたすらその繰り返しで遊ぶ暇などほとんどありませんでした。想像していた学校生活とは程遠く、高専に入学したことを後悔したこともありました。

しかし5年になった今では、後悔は少しもありません。低学年の頃は練習漬けの毎日で、日頃から勉強なんてほとんどしていない私はテスト期間はほぼ徹夜で大変でしたが、今となっては慣れたもので寝不足のままテスト終了日恒例の打ち上げへ。夏休みには5学科合同のパーベキューにいわき踊り、そんな中での意外な人との交流(笑)。5年では本当に楽しいことばかりで、毎日がとても充実していてこれまでにないほど濃い一年となりました。さらに部活では目標だった全国高専大会優勝が達成でき、決して忘れることのできない高専生活となりました。

今思えば、私にとって5年という高専生活は本当に短いものでした。この高専でみんなと出会えたこと。そしてみんなと5年間一緒に過ごせたこと。それが私の宝物です。

卒業生進路一覧

※()内は人数

福島高専専攻科(7名) 長岡技術科学大学(7名) 新潟大学(2名) 東京農工大学
 いわき明星大学 東京農業大学 音楽専門学校ミューズ音楽院
 アステラスファーマケミカルズ(株) (株)いわきコピーセンター エレホン・化成工業(株)
 (株)カネカ (株)クレハ コスモ石油(株) サントリービバレッジプロダクツ(株)
 中外製薬工業(株)(2名) 東北ニプロ製薬(株) トーアエイヨー(株) 東京電力(株)(2名)
 東新工業(株) 日本特殊化学工業(株) (株)半導体エネルギー研究所 (独)国立印刷所
 (独)産業技術総合研究所



建設環境工学科

Department of Civil Engineering

ありがとう。

建設環境工学科 5年担任 菊地 卓郎

みんなは今、たくさんの人達に「おめでとう」という言葉をもらっているかと思います。私もみんなに対して、「卒業おめでとう」という言葉が真っ先に出てくるものだと思っていました。しかし、今こうして、卒業を迎えるみんなのことを想うと、「ありがとう」の感情が込み上げてきます。高専時代という旅の中で、どれだけ笑・泣・喜・驚・怒・悩・悲・学・恋をしてきたでしょうか。溢れんばかりのすべての感情が入り混じった日々がみんなを大きく成長させ、こうして、ひとつの終点を迎え、次の旅に出ようとしています。そんな成長の日々を共有できた私はみんなから学び、支えられ、励まされた「ありがとう」の感謝の気持ちでいっぱいです。

次の旅に出るに当たって、メッセージを送ります。「自分にだけはウソをつかない。自分であり

続けるために。」この言葉は私が学生の頃から心に留めている言葉です。自分にウソをついていると自分を嫌いになって、人に対しても優しくなれないし、年を重ねる中で、自分に対して、やらない言い訳の材料を探しては「しょうがないよね」なんていう大人になりたくないと思って、今までやってきました。たった一度の人生です。自分で決めたことだからと自分で人生を選択して、カッコよく生きてください。

みんなが見せてくれる心から溢れる笑顔をこの先ずっと忘れずにいてください。10年後、20年後もその笑顔に逢えたら、幸せです。

最後に改めて、たくさんの気持ちを込めて、贈ります。

「ありがとう。」

5年間の色々な思い出

建設環境工学科 5年 國分 俊和

年月が流れるのは早いもので私が福島高専に入学してから、もう5年の年月が流れてしまいました。思い返すとこの5年間で良くも悪くも色々な思い出ができました。全種目優勝したら焼肉をおごってくれると吉村先生に言われクラスで団結し見事偉業を成し遂げた球技大会、毎回筋肉痛になりながらも頑張ってプレーしたクラスで立ち上げたフットサル愛好会、寮のご飯がおいしすぎて体重が5kgも増えたインターンシップ、うちわが壊れるほどみんなで炭を扇いだ学園祭の焼き鳥の模擬店、夜遅くまで十数か所蚊に刺されながらもホテルを追いかけた卒業研究など少し考えるだけで色々なことを思い出します。そんな色々な思い出を共有したクラスの仲間と別れるのは辛いですが、どの思い出も鮮明に覚えているためか今は清々しいに気持ちでみんなの門出を祝うことができます。私は今春から専攻科に進学することに決まりクラスのみならずもちょっと長らく高専にいられる事になりました。

長くなりましたがこの場を借りてみなさんにお礼を言いたいと思います、クラスのみんな5年間ありがとう。そして教員の皆様、在校生の皆様あと2年お世話になります。

5年を振り返って

建設環境工学科 5年 松島 由布子

諸事情によりどんよりとしてしまった中学時代を終えて、私が進学先として選んだのは福島高専でした。唯一の県外進学ということもあり、不安も多少ありましたが、希望を抱いて入学したあの日が今も鮮明に思い出されます。

入学したまでは良いものの、4年生までは専門教科の殆どに興味が持てず、嫌々勉強を続けて苦しい思いをし、「普通高校に行くと、素直に絵描きになればよかった」と思った日々もありました。授業の他にも課題に追われ、不器用だった為に追い詰められることも多々ありました。就職が結局最後まで決まらなかった為、惨めで虚しい思いをし、和気あいあいとしたクラスの空気に耐えられず、生まれて初めて「学校に行きたくない」と思った日々もありました。本来このような場では楽しかった思い出を書く方が常であるとは思いますが、苦しかったことの方が多かった5年間だったというのが本音です。

ただ、苦しただけでなく、人の恩を今まで以上にひしひしと感じた5年間でもありました。こんな出来損ないでもサジを投げず温かく指導して下さった先生方、明るく接してくれた友人たち、皆さんのお陰で何とかここまで辿り着くことが出来ました。本当に有難うございました。

卒業生進路一覧

※ () 内は人数

福島高専専攻科 (5名) 長岡技術科学大学 (6名) 豊橋技術科学大学
 室蘭工業大学 福島大学 茨城大学 宇都宮大学 (2名) 金沢大学 琉球大学
 ㈱エヌ・ティ・ティ・エムイー (3名) 大阪ガス㈱ 東海旅客鉄道㈱ (2名)
 東京電力㈱ (2名) 東北電力㈱ 電源開発㈱ 日本空港テクノ㈱ 日本プロセス㈱
 ㈱福建コンサルタント ㈱ヤマハ化工東京 ㈱J P ハイテック いわき市役所 仙台市役所



コミュニケーション情報学科

Department of Communication and Information Science

期待すること

コミュニケーション情報学科 5年担任 森川 治

卒業おめでとうございます。

3年次に担任になり、常に何事にも全力で取り組むとともに、他人に配慮できる人間に成長することを熱望してきましたが、どうでしょうか。私の期待に応えられる青年に成長したものと確信しています。

君達も知っているように、100年に一度とも言われる経済危機、回復基調にあると言われるが、二番底の不安が払拭されない日本の経済状況。日本製品の信頼性を揺るがすトヨタのリコール問題。安定しない国内政治情勢。どれ一つをとっても日本が一度も経験したことのない大問題です。

この様な状況に新しい第一歩を踏み出す君達への期待は並々ならぬものがあります。我々は目の前や自分のことばかりに気をとられ、愚かな振る舞いをしがちです。一寸先の光明を信じ、自分

ができる事だけでもやり抜き、この一瞬一瞬を懸命に努力する。その積み重ねが自分を磨き、未来を切り開いて行くのではないのでしょうか。自分の足下を見つめ、与えられた場で地道な努力を重ねる。

我々には各人に与えられた場があり、それがいかにささやかなものであっても、少しでも自分を高める。そのことを心に留め、日々精励して下さい。

私自身心がけているが、できないことを言いましたが、これも君達に期待する一心からです。

最後に、君達の活躍を祈っています。

卒業

コミュニケーション情報学科 5年 小野 優里

期待を胸に入学してから、5年が経ちました。私にとって高専での学生生活は、忘れることのできないものとなりました。

特に5年間続けてきた部活動は、かけがえない思い出です。部活動のために5年間ほぼ毎日学校に通い、練習に励んだり、練習の合間に皆で雑談したことは、つい昨日のように思い出されます。決して楽しいことばかりではなく、途中で投げ出したくなったことや人の上に立つことの難しさを知ったこと等、苦勞したことばかりでしたが、今振り返れば部活動があったからこそ、今の私があるように思います。

また、さまざまな人の支えがあったからこそ、5年間学校を続けることができました。それは家族であり、先生方であり、仲間です。春からは社会人として新生活を迎えることとなりますが、この感謝の気持ちを忘れずにこれからの人生を歩んでいきたいとします。

もう学校で授業を受けることがないと思うとうれしい反面、さびしい気持ちになります。しかし悔いはありません。福島高専で充実した5年間を過ごすことができ、卒業できたことを誇りに思います。

最後に、お世話になった先生方、家族、クラスメイト、部活動のみんな、5年間本当にありがとうございました。

ありがとう

コミュニケーション情報学科 5年 田部 沙由梨

5年間の高専生活、過ぎてみれば随分とあっという間だったように思います。しかし、その中でとても沢山の出会いがあり、また沢山の思い出ができました。

まずは同じクラスの皆さん、大変お世話になりました。5年間もの長い間を毎日楽しく過ごすことができたのは、紛れもなく皆さんのおかげです。4月からは同じ教室で生活することはなくなってしまい淋しくなりますが、卒業してからもぜひ一緒に遊んで下さい。

そして、部活なしには私の高専生活を語ることはできません。バスケット部は男女共にとても仲が良く、毎日部活に行くのがとても楽しみでした。私は同じ学年の女子が1人もいない中入部し、初めは心細い思いをしましたが、それでもここまで続けてこれたのは大変良い仲間にも恵まれたおかげだと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この部活に入部して本当に良かったです。

この5年間で出会った全ての人に、「ありがとう」。

卒業生進路一覧

※ () 内は人数

福島高専専攻科 (10名) 山形大学 (2名) 東北大学 (4名) 福島大学 (2名)
 筑波大学 埼玉大学 神戸大学 東北工業大学 法政大学 早稲田大学 江戸川大学
 桑沢デザイン研究所 (2名) 文化服装学院
 日本=ニュージーランド・パートナーシップ・ファウンデーション ㈱金馬車 白河オリンパス㈱
 ㈱東邦銀行 (2名) ㈱富士通アドバンスソリューションズ 雪印乳業㈱ ㈱F S K
 いわき市役所 葛飾区役所

祝 修了 機械・電気 システム工学専攻



修了生に贈る言葉—価値ある実績を！

機械・電気システム工学専攻 専攻長 渡辺 敏夫

専攻科修了おめでとうございます。専攻科に入学してからは2年しか経っていませんが、高専に入学してからは7年の長い月日が過ぎました。専攻科を立ち上げたときは、専攻科が学生諸君にどれほど受け入れられるかわからず、ただこれまで積み上げてきた高専本科の土台の上に、手探りで一つ一つ積み上げてきました。現在、ようやく立ち上げ時の困難を乗り越えて、6年の時が流れ、専攻科の歴史が一步一步作られようとしています。みなさんは専攻科を終えるに際して、世の中に役立つ成果が得られたらどうかの思いがあるとおもいます。しかし、これまでの修了生や、ここに巣立っていく修了生を見ていると、専攻科生の値打ちを実感します。これは、高専が教育機関としての役割を効果的に果たしていることを証明しているのだと思います。今年の修了生も、就職希望の学生は希望通りの企業に就

職し、大学院へ進学希望の学生も希望通りの大学へ合格することができました。このような進路を取ることができたのも、専攻科に入学したからではないかと思えます。しかし、世の中では専攻科修了生の評価はまだ定まっているわけではありません。修了生が希望通りの進路を取ることができるのも、本科の歴史と実績があるからです。修了生諸君は、これから続く後輩たちのためにも、ぜひ社会で専攻科生の価値ある実績を残してください。専攻科の価値が高まれば、その成果は社会で働く君たちに必ず帰っていくことでしょう。

専攻科で学んだ教訓を糧に、これから出会うであろう様々な困難を乗り越え成長して行ってください。成長した諸君と再会することがまた、私たちの楽しみです。健闘を祈ります。

山田研、ありがとう！

機械・電気システム工学専攻 2年 高木 隆

高専での7年間、思えばあっという間の出来事でした。人生の約3分の1をここで過ごした…のか？課題に対する「しぶとさ」、これが高専生活で身についたことです。とくにレポートに関しては、やらない奴=死ぬ(留年)が高専社会の現実なわけで、常にギリギリのラインで生き残ってきました。専攻科に入学してからは、本科に引き続き山田研に入りました。ただ、まあ、この2年間は山田研の暗黒歴史になっているんじゃないかって思います。「ごめん。階段で転んだら足の骨が…(以下略)」山田先生、骨折、入院。北海道で学会発表、最初の電車乗り換え後「あれ？ポス

ターは…？」事件。この専攻科2年間はとくに嵐のような毎日で、その中で研究、インターンシップ、就活、学位試験を無事こなしてこれたのも山田先生のおかげです。先生を見ていたら、いつの間にか、いろいろな意味で勇気をもらっていたような気がします。専攻科に入って何がよかったかって、一番は担当教員とのコミュニケーションだと思います。全く新しい世界に飛び出すのもいいですが、今ある関係をより深めるのも1つの選択肢かと。最後に、高専ありがとう！在校生のみなさん、残りの生活を大切に。

卒業生進路一覧

※()内は人数

筑波大学大学院

㈱エヌ・ティ・ティ・エムイー

東京電力㈱ (3名)

日立化成工業㈱

三菱重工業㈱

祝 修了 物質・環境 システム工学専攻



2年間ありがとう

物質・環境システム工学専攻 専攻長 山ノ内 正司

皆さん専攻科修了おめでとうございます。専攻長としての仕事は、入学式の入場の際、皆さんを誘導することから始まりました。それからの2年はあっという間でした。諸連絡が遅れたり、間違った情報を流したりで、反省材料は多々ありますが、ぎりぎり合格といった所でしょうか。楽しい2年間でした。ありがとう。インターンシップ発表会、特別セミナー発表会、特別研究発表会と、多くの発表会を行って来ました。中でも心に残るのは、通算5回にわたる特別研究発表会で、堂々と研究成果を発表している皆さんの姿でした。その結果、石沢君が土木学会東北支部技術研究発表会において研究奨励賞を、倉持さんが国土交通省浜通り管内技術業務報告会において優秀賞を、そして久保木さんが先日の公開発表会において最優秀ポスター賞を受賞するなど、これらは特別研究の専門性とプレゼンテーション能力の高さを証明するもの

と言っても過言ではありません。今後、大いに自信を持って活かして欲しいものです。また、厳しかった就職戦線を就職希望者全員が内定し、2名が東京工業大学大学院に進学と、進路についても良く健闘したと思います。まぎれもなく皆さんは、専攻科の歴史を創るフロンティアの立場にあります。専攻科修了生としての誇りと自信を持ち、そして学び求める心をさらに深めながら進んで行って下さい。これまでの福島高専の歴史がそうであったように、皆さんの活躍すべてが、巡り巡って母校福島高専専攻科をさらに発展させる血となり肉となるに違いありません。そしていつの日か、専攻科修了生の中から母校の教壇に立つ人が現れることを心から願っています。多くの個性に出会えたことに感謝し、皆さんのご活躍を祈っています。

専攻科修了にあたって

物質・環境システム工学専攻 2年 河野 友希

2003年4月に高専に入学し、7年が過ぎました。この7年間さまざまな方々に支えられてきました。そして2010年3月専攻科修了を迎えようとしています。先生方には、なにもわからなかった本科1年生の頃から基礎的、専門的な知識など様々なことを教えていただきました。特に担任であった内田先生、また卒業研究から専攻科までの3年間お世話になりました青柳先生には色々ご迷惑をおかけしたことと思います。本当にありがとうございました。専攻科を修了していった先輩方、特に研究室の先輩には

かわいがっていただき、大変お世話になりました。また、後輩たちともさまざまなところで交流できたことをうれしく思います。本科での友人や専攻科での友人たちとは共に勉学に励み、苦しみも共有しました。時には、くだらない話で盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことができました。今までの7年間は楽しいことばかりではありませんでしたが、それでも充実した生活を送れたと感じています。私と関わったすべてのみなさん、本当にどうもありがとうございました。

卒業生進路一覧

※()内は人数

東京工業大学大学院 (2名)

会津オリンパス㈱

クリナップ㈱

㈱クレハ環境

生化学工業㈱

㈱土木管理総合試験所

武田薬品工業㈱

東日本高速道路㈱

祝 修了 ビジネス コミュニケーション学 専攻



疑問の気持ちを忘れずに！

ビジネスコミュニケーション学専攻 専攻長 脇田 淳一

専攻科修了おめでとうございます。短い2年間ではありましたが、この間、授業はもちろんのこと、1ヶ月に亘るインターンシップや、異分野の経験の特別 세미나 等の、専攻科ならではの特徴あるカリキュラムに加えて、2年間の特別研究は皆さんの実力をワンランク向上させたことはまず間違いなくと思います。1つのテーマを2年間追いかけるというのは、大学で言えば修士論文に匹敵するわけで、それだけ専攻科における特別研究の重みが重いと見えるのだと思います。皆さんが2年間研究生活を送ってきてどんな感想を持ったかはわかりませんが、1つ言えることは、研究活動とはいえ、その中には、これから皆さんが社会人として仕事を始めた時に必要とされる様々な要素が含まれており、いわゆる仕事のやり方というものを、研究を通じ

てオン・ジョブ・トレーニングしてきたということです。計画を作り、計画を進行させながら適宜チェックを入れて計画を変更していくというスタイルは、仕事のやり方と全く共通するものだと思います。それゆえ今までの2年間の修練は今後社会に出てから実際に効果を発揮すると信じております。皆さんがこれからどんな道を歩んで行くにしても、大事なことは、常に現状に満足することなく、これでいいのかという疑問の気持ちを忘れないということです。この疑問の気持ちがある限り向上が期待できますし、これこそが2年間の特別研究で得られた最大の成果なのではないでしょうか。これから先様々な疑問にぶつかるでしょうが、最後に特みにできるのは自分だけです。それゆえ常に自分を磨くことも忘れずにいて欲しいと思います。

卒業までの道程と新たな決意

ビジネスコミュニケーション学専攻 2年 久野 祐

故郷の小野町を出て、高専に入り早7年となりました。激動の高専生活からいよいよ卒業となります。今の心境を「川の流れ」に例えると、急流の渓谷を抜けて下流に差しかかるようにしている所、といった感じでしょうか。本科5年の後の専攻科2年では、滝のように短いながらも中身の濃い時間を過ごしました。

高専在学中はたくさんの岩にぶち当たりましたが、その度に先生方や事務の方、そして友人たちが木の様に見守ってくれました。周りの支えがあって卒業まで流れ着くことができました。7年の高専生活でお世話になった方々には、

言葉に言い表せないほど感謝の気持ちで一杯です。

高専を離れて新しいスタートを切るにあたっては、7年間で学んだことを活かしつつ、高専に入学した頃の志をもう一度振り返って頑張りたいと思います。「誰もやらないことでもやる」、「待たずに自分で行動する」。それに加えて、「今できることを着実にやる」という気持ちをもって、太平洋まで流れ着くよう進んでいきたいです。

不器用な私を磨き続けてくれた全ての人へ、7年間ありがとうございました！

卒業生進路一覧

※ () 内は人数

トライネット・ロジスティクス㈱ 東日本測量㈱

学生会



「学生会活動を振り返って」

学生会長 コミュニケーション情報学科 5年 薄 奨悟

卒業という節目を目の前に、私は今とても清々しい気持ちでいっぱいです。これもひとえに学生生活が充実していたからではないでしょうか。

今年度の活動内容は、学生総会の開催、募金活動、学生交流会、警陽祭の補助など多岐にわたる活動を行いました。その中でも、特に東北地区学生交流会主幹校としての活動が印象に残っています。インフルエンザによる休校などもありましたが、無事開催することができました。話し合いでは様々な議題について活発な意見交換がなされ、今後の学校生活の改善に繋がる交流会となりました。今後もこういった活動を行い、東北地区、さらには全国地区と輪を広げていって欲しいと思います。

私はこうした学生会活動を通して、人間関係の大切さや人々をまとめることの大変さなど、様々なことを学ぶことができました。こうした経験は、今後の人生に大いに役立つものになると思います。

高専での5年間は、長いようでとても短いものです。何かに打ち込んだり、一生の友を見つけたり、新しい事にチャレンジしてみるのもいいでしょう。とにかく後悔しない5年間にしてほしいと思います。残りの学生生活を楽しみ、高専生としての誇りを持って社会へと羽ばたいてください。

最後になりましたが、学生会に携わって下さった諸先生方、お世話になった学生課ならびに学生会役員、そして全学生の皆さん、本当にありがとうございました。

卒業生・修了生のみなさんへ

- ◆この文章は27年後に読んで下さい。
1982年、すでに全盛を過ぎていると言われていたSimon & Garfunkel のコンサートに行きました。
それでも素晴らしかった。
月日は流れて2009年7月。
行かずにはおれませんでした、Simon & Garfunkel。本当に最高でした。
誰が27年前にこのようなことを想像していたでしょうか。
さて、諸君、元気でやっていますか。
福島高専卒業27年目おめでとう。
(一般教科 新井)
- ◆卒業おめでとう。
これまで高専という中で過ごして来ました。
これから、もっと色々なことにチャレンジする機会に恵まれると思います。
みんなの活躍を願っています。(機械 平尾)
- ◆社会に出ると、悩むこともあると思います。
困った時は、一人で悩まずに、誰かに相談しよう。
(一般教科 鳥居)
- ◆卒業おめでとうございます。
社会に出たら、SPEEDです。
「いつまでですか。」といった問いかけはしないこと。
期限があれば依頼者は言うでしょう。
いつまでも未達成の仕事を抱えていると新しい仕事を受け入れる余裕ができません。
早く終わらせ、次の仕事を見つける。
これができないとCHANCEも逃げていきます。
アズスーンアズポシブルですが、そこに甘えないよう。
君達が早く日本を背負う人材になることを期待しています。
(建設 金子)

- ◆ご卒業、本当におめでとうございます。
皆さんと同じ時間を共有できて、とても幸せでした。就職して社会にでる人も、進学して新しい場所で学ぶ人も、これからは自分の興味と好奇心の赴くままに、勉強し、自分を磨いて下さい。
(建設 高荒)
- ◆いかなる環境におかれようとも学び続けることが大切です。
自分の心を管理し人格の向上に努めることが大切です。
目標を達成するには自分を信じる気持ちが大切です。
(一般教科 島袋)
- ◆卒業おめでとう。
“FLUCTUAT NEC MERGITUR (漂えど沈まず)”をはなむけの言葉として贈ります。
漂っていても沈まなければ、人生、きっと良いことが巡ってきます。
(機械 松本)
- ◆ご卒業おめでとうございます。
いつまでも、率直・真面目に過ごした高専時代の自分を忘れないで活躍して下さい。
(コミ 米本)
- ◆All our dreams can come true, if we have the courage to pursue them.
(機械 鈴木)
- ◆ご卒業・ご修了おめでとうございます。皆さんにこの名言を送ります。
「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」(松浦静山)
これは、野村克也氏の座右の銘でもあります。失敗には必ず原因があるが、成功には「運」が左右し得ることを意味しています。運は、努力を重ねた人の前に姿を現すことが多い

はなむけの言葉を贈ります

- ◆ようす。たゆまぬ努力で、運を呼び込んで下さい。
(一般教科 笠井)
- ◆ご卒業おめでとうございます。
卒業するということは、自分の力で生きていくということです。
何かをするときには、慌てずに一度立ち止まって考えてください。
必ずもっといい方法があります。
(物質 天野)
- ◆Every single cloud has a silver lining.
本科卒業生には初めて担任したクラスもあって深く関わった学生が多く、とても嬉しくとても寂しく感じています。
これからの人生においてみんなが明るく前向きに歩いていけることを心から祈っています。
いつでも何度でも遊びに来てください。
卒業・修了おめでとうございます。
(一般教科 中山)
- ◆皆さん、あっという間に終わった高専生活はどうでしたか。
楽しかったり、悔しかったり、くじけそうになったり、いろいろな思いをしてきたでしょう。
さまざまな困難を乗り越えて、晴れて卒業できたことを心より祝福いたします。
これからは自信を持って福島高専で培った才能を遺憾なく発揮できるよう仕事や勉学に励んでください。
(機械 鄭)
- ◆チャンスの女神の後髪は短いので、気が付いた時では女神を捕まえることはできません。予め準備をして、チャンスを逃さないように心がけましょう。
(建設 緑川)
- ◆Never give up, Advance forever.
(建設 根岸)
- ◆どんな時でも、半歩でもいいので、進む気持ちを持って歩いてください。
その気持ちが自分自身の背中を押し続けてくれます。進め、進め、歩け、歩け。
(電気 濱崎)
- ◆「十五の魂百まで」私が勝手に作りました。
高専の5年間で、専門に苦手意識を持ってしまったあなた。それでも卒業できたあなた。
15歳で専門を決断したその重みとその後5年間勉強して卒業まで継続したその努力は、そんなに軽いものではないと思います。
全く違った分野で活躍することは大いに結構ですが、苦手意識は人生の幅を狭めると思っています。そんな苦手意識が勘違いだったと気付いて、在学当時の専門に関する職に戻っている先輩方がたくさんいます。
(物質 鴨下)
- ◆ヒトを感動させる創作物という本義に立ち返ると、優れた人間の営みがおしなべてアートであることに納得がゆく。
翻って学問はいかがか？
権威や虚妄に惑わされず真実を見抜く目を養う営為ではなかったか？
技芸と学術を分かつべきか、芸術として包摂すべきか。
実学を標榜する高専にとっても本質的な課題ではなからうか？
功利主義的な世情に流されず大局観をもって主体性を堅持したいものだ。
(一般教科 宮澤)



平成21年度 卒業生・修了生の進路状況

進路対策委員長 原田 正光

平成21年度卒業生の就職活動は、平成20年秋のリーマンショック等の影響をだいたい反映し、たいへん苦しい状況でスタートしました。例年同様に、企業からの求人訪問は新学期を迎える前の1月くらいから本格化し2月から3月にかけてピークでしたが、その後は伸び悩み、今年度の最終的な求人数は578社から合計1560人と昨年度の808社から合計2200人を大きく下回り、平均倍率は約19倍（昨年度は約25倍）でした。平成19年度は求人倍率27倍でしたから、今年度の落ち込みは、就職に有利な高専といえども厳しい状況でした。

一方、大学等への進学については、本校専攻科への進学に加え、国公立大学や私立大学への編入学に総勢98名（2月末時点）もの合格者を出すことができました。今年度も昨年度に続き卒業生のほぼ半数が大学等に進む状況となりました。特に、本校専攻科への進学者数は定員20名に対して34名とすごい人

気で狭き門となっています。そして、今年度は専攻科からは、東京工業大学大学院、筑波大学大学院への進学を決めています。

今年度の特徴として、就職活動の厳しさもあり途中から進学に変更したり、先の見えない経済状況を考えて高専からの有利な就職に変更したり、全般にわたり例年とは異なる選択を強いられる学生が多かったようです。

このようななか、平成22年度の卒業生を対象とした求人がすでに始まっています。2月末で約285社（昨年度同時期約400社）からの求人があります。厳しい状況下にはありますが、高校や大学・短大に比べて高専はまだ恵まれているようです。しかし、最終的に進路を自分のもとに手繰り寄せるのは学生自身です。本科5年生、専攻科2年生には意思決定・情報収集・行動の迅速化を心がけてしっかりとした対応で臨み、希望の進路を勝ち取ってほしいと思います。

卒業生の進路（平成22年3月卒業）

() は女子学生

区分	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建設環境工学科	コミ情学科	計
卒業生数	34(0)	44(3)	41(16)	40(12)	38(25)	197(56)
進学者数	15(0)	22(1)	20(5)	19(3)	29(17)	105(26)
就職者数	17(0)	20(2)	18(10)	17(7)	9(8)	81(27)
各種学校その他	2(0)	2(0)	3(1)	4(2)	0(0)	11(3)

専攻科生の進路（平成22年3月修了）

() は女子学生

区分	機械・電気システム工学専攻	物質・環境システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
卒業生数	8(0)	9(4)	2(1)	19(5)
進学者数	1(0)	2(0)	0	3(0)
就職者数	7(0)	7(4)	2(1)	16(5)



先輩達から後輩の皆さんへ進路についてアドバイスをいただきました。

就職 機械工学科5年 渡部 健二

私が進路の事を真剣に考えるようになったのは4年生の後期になってからでした。それまでの私はただ漠然と就職したいと思っていただけで具体的な職種なども考えていませんでした。そんな私は機械工学科に来た多くの求人の中から1社を選ぶのに大変苦労しました。2月に進路を決めてから4月に入社試験をして合格通知が来るまでの3ヶ月はあっという間でした。

就職を希望している後輩の皆さんは4年生の1月から5年生の5月まで本当に忙しくなると思います。そしてこの時期は今後の人生を決めるとても大切な時期です。時間に追われて焦ることもありますが、時間にも心にも余裕を持って就職活動ができれば、きっと良い結果に結び付くと思います。

就職 電気工学科5年 小野 憲人

私は、4年次にインターンシップに行った企業に就職をします。インターンシップに行った当時は、この企業を就職先にしようとは全く考えていませんでしたが、その後よくよく考えてみると社会の中で今自分が一番よく知っているのがその企業であり、その企業が自分にマッチしたとても良いものである事に気がつきました。そしてその後も説明会に積極的に参加しました。就職先を選ぶ際はとにかくその企業をよく知ることが重要です。企業説明会は1月にはもう行われている企業もあります。興味のある企業があったらインターネットを活用して早めに情報を集めるようにして、出来る限り早く就職活動を始めると良いと思います。説明会のような環境に慣れることで試験でも心に余裕を持てるはずですよ。

就職 物質工学科5年 岡田 真美

100年に1度の天不況のあおりを受け、私のこの1年間の就職活動は本当に辛いものでした。友人達が早々と内定を手にする中、次第に焦りばかりが募っていきました。面接で落ちるたび、自分の存在やこれまでの努力を全否定された気持ちになりました。さらに親からの「お前だけが決まっていけないぞ!」という追い打ちをかけるような言葉と、周囲の「頑張れ」という応援に、何度も心が折れました。

それでもあきらめずに就活を続けた私からのアドバイスです。就活は自分との闘いです。学校推薦だけに的を絞らず、複数の就活サイトに登録して、自由応募でのチャンスをどんどん広げていってください。そして、最後の最後まで闘い抜いてください。

皆さんの就活がうまくいくことを祈っています。

就職 建設環境工学科5年 大平 創

私が高専に入学した理由のひとつは、就職だけでなく進学も有利であるということです。私は環境分野の勉強をしたいと常々思っており、在学中は特に環境系の授業を進んで学習してきました。しかし昨今の不景気に不安を覚え、5年の始めに就職試験を受けましたが、決意が足りず上手くはいきませんでした。私は己の未熟さを痛感すると共に、初心に立ち返り勉強を続けることを決意し、そして遅ればせながら10月に国立大学への進学を決めることが出来たのです。

高専の5年間は過ぎてしまえば短く感じるかもしれませんが、恐らく人生において最も充実し、なにより悩むことが多い5年間といえるでしょう。そのなかで自分が真にやりたいことをみつける、もしくはやりたいことを貫き通す意志こそが、進路を決定付ける重要な要素であることは間違いありません。在学中は存分に悩んで下さい。ただ友達が就職だから、進学だからと安易な理由で自分の将来を決めていいものではないと思います。周りに流されず、妥協せずに「自分のための人生」を歩んで下さい。努力を惜しまない思いだけは、きっとあなたを裏切ることはありません。

就職 コミュニケーション情報学科5年 小池 真奈

進路が決定するまでの間、そばにいてくれた誰をとっても、全てが私の支えでした。

当初就職を希望していましたが、この不況下で自由応募の厳しさを知り、5年の7月に就職活動を諦めました。就職しか考えていなかった私は、もちろん進学のための勉強も一切していなかったため、一からのスタートでした。受験までの約3ヶ月間は、本当に挫折しそうな辛い期間でしたが、休みを返上して勉強に付き合ってくれた先生と辛い期間を一緒に過ごした仲間がいてくれたことが、本当に私の支えとなりました。

ひとりで無理に頑張ろうとしないで、辛いときは誰かにいっぱい頼って受験や就活を乗り越えてください。

就職 物質・環境システム工学専攻2年 永山 裕樹

進学を考えている皆さん、どの大学へ進むべきか悩んでいませんか？私は7年間の高専生活で2度受験シーズンを体験しましたが、1度目は特にこの悩みを抱えていました。受験勉強するにも目標を定めなければなにもできません。

進学先を選択する際、資料やホームページを参考にするのも良い方法ですが、それでも選べない場合は、気になった大学へ直接行ってみることをお勧めします。オープンキャンパスなどがあればできる限り参加して下さい。

その大学の雰囲気を知ることができず、先輩方にどんな方法で受験勉強したのか等の情報を訊くこともできます。特に大学院受験では、入りたい研究室の教授とコンタクトを取っておくことが重要になります。自分の進路を実現するために頑張ってください。



21年度磐陽祭を終えて

学生主事補 島袋 修

平成17年度に高専祭の毎年開催を目標に掲げて今年度で5年連続の開催となりました。19年度は創立45周年記念ということで、大規模なものでした。

20年度は、本格的に毎年開催として続いていく高専祭の基本的な型を作りあげていくことを目標に活動しました。

今年度は、名称を磐陽祭と改め、より自分たちの手で創り上げていくことを目標に活動しました。今年度の磐陽祭テーマ"ココロハジケル ミライハジマル"には学生一人一人が夢や希望で満ち溢れる様子を表現できる行事にしたいという意味がありました。

残念ながら例年行われてきた前夜祭はインフルエンザ拡大防止の為、中止となりました。しかし、そのエネルギーを本祭の準備に集中して各団体、問題なく準備をすることができました。本祭は大きく分けて3つの企画から成り立っています。

1. 5つの専門学科それぞれ特色ある学科展示、
2. 2センター（地域環境テクノセンター・情報処理教育センター）、
3. クラス、部活動、愛好会単位での展示や催し物、今年度から福島県授産事業振興会による手作り小物などの販売、そして実行委員会を中心とした企画。

これら全てに手を抜くことなく学生が一生懸命準備に取り組む姿を間近に見ることができたことに感謝しております。例年、教員に頼っていた部分も、ほとんどなくなり見栄えは悪くとも一生懸命さが十分伝わる内容となりました。今後は、一層、学生による主体的な運営を期待します。

とはいうものの、その成功は教職員の多大なるご配慮と保護者や地域の皆さま方のご理解、ご協力の賜物だと思っております。心から感謝申し上げます。

最後に、実行委員長、前夜祭委員長、催し物委員長、広報委員長、装飾委員長、案内委員長のみみなへ、インターンシップやインフルエンザによる予期せぬ計画の変更などにも投げ出したりせず、最後まで本当によく頑張ってくれました。ありがとう。

「第1回磐陽祭」

磐陽祭実行委員長 物質工学科 4年 瓜田 裕之

平成21年度磐陽祭にお越しくございました方々、また、開催するにあたってご支援くださった地域住民や地域企業の皆様方、本当にありがとうございました。無事に磐陽祭を開催することができたのも皆様方のおかげと感謝しております。

今年度は、新型インフルエンザの影響で前夜祭を開催することができませんでした。本祭の開催も心配されましたが、当日はたくさんの方々にお越しいただき盛大に磐陽祭を開催することができました。また、今年度から昨年度までの「高専祭」から「磐陽祭」と名前を改め、文化祭が新たなスタートをきりました。この磐陽祭という名前には、福島高専の伝統行事である高専祭に、学生・保護者・地域住民の皆様方に親しみを持ってもらい、みんなの力で文化祭を作り上げたいという願いを込めました。

今年度の磐陽祭のテーマは、「ココロハジケル ミライハジマル」でした。たくさんの人の願いと想いが込められた第一回磐陽祭は、未来へとつながる素晴らしい文化祭となったのではないのでしょうか。

磐陽祭がより一層すばらしい文化祭となるようさらなる努力をして参りますのでぜひ来年度も磐陽祭にお越しく下さい。学生一同お待ちしております。



学年・学科行事

福島高専では10月29日(木)・30日(金)両日にわたり、学年・学科行事を実施しました。本行事は、企業・施設の見学を通じて専門に対する興味、見識を深めるとともに、今後の進路を考える上での参考にする事、また、スポーツ交流を通じて学科を越えた交流を図ることを目的として実施されています。

今回はその中から見学旅行に参加した学生の皆さんに、感想を述べてもらいました。

● 機械工学科 ●

機械工学科 2年 鈴木 諒平

2年機械工学科は、原町火力発電所と福島第一原子力発電所の見学に行きました。

原町火力発電所では、東京ドーム33個分も入る広大な敷地にたくさんの施設があり、火力発電の仕組みや環境に配慮した設備について学びました。

福島第一原子力発電所では、実物大の模型による原子炉の構造、技能訓練棟での原子力に関する知識の習得や設備について詳しく学ぶことができました。この見学により、環境に配慮することがどういうことなのか、改めて実感することができました。



東北電力 原町火力発電所
ご見学記念
2009年10月29日

機械工学科 4年 鈴木 光

今回、4年機械工学科は日立建機、成田空港のJAL整備工場での工場見学、そして東京モーターショーを見てきました。この学年行事は、今後の自分の進路を考える上での参考にするということが自分の目的でした。それぞれの見学先ではエンジニアとしての心構えや、就職試験や面接についてのアドバイスなどを聞くことができました。進路の選択を迫られている身としてとても参考になりました。そしてやはり、クラスメートや担任の茂和先生との1泊2日の旅は思い出をたくさん残した忘れられないものとなりました。



早くも来年が楽しみです
ね! 荒木君!

● 電気工学科 ●

電気工学科 4年 鈴木 将敬

今回の学年・学科行事日は、アルパイン、富士通、東芝の工場と日立製作所の記念館を見学させていただきました。どこを見学でも、その企業の歴史と最新技術を学び、それには必ず驚きが伴いました。企業の歴史には創設者や社員の方々の、私にはとても想像の及ばないような努力と才能が伺えました。そして最新の技術や製品には、こんなものが開発されていたのか、こんなに品質の良い製品が作られているのか、と思わされました。今回の学年・学科行事日は、大企業というものに触れる良い機会だったと思います。



電気工学科 5年 五十嵐 大輝

1. 目的 みんなで楽しく! 最高の思い出を作ること!!
2. 旅先 松島湾ひとめぐり、秋保温泉、秋保大滝、万華鏡美術館、三井アウトレットパーク仙台港
3. 旅の結果 松島湾や万華鏡など自然や芸術の美に感動し、秋保温泉と牛タンに身も心も癒された。
4. 検討及び考察 全員が最高の思い出を作れた! 担任の山田先生もきっと栄養ドリンクを飲まずに済んだことだろう。卒業後、再会したときにはこの旅を思い出しながら楽しくお酒が飲めるだろう。



● 物質工学科 ●

物質工学科 2年 青木 拓夢

2年物質工学科は、アクアマリンふくしまと勿来火力発電所の見学に行きました。アクアマリンふくしまでは、自然の素晴らしさに触れることができました。各コーナーにある紹介パネルも分かりやすく、絶滅危惧種の説明やアクアマリンふくしまの様々な取り組みを知ることが出来てよかったです。勿来火力発電所では、僕たちの生活の中でも身近な電気の供給について学びました。実際に工場の中を見学したり、発電所の職員の方の話を聞くことができ、良い経験をしたと思います。今回の学年行事で学んだことを今後の生活に活かしていきたいです。



物質工学科 5年 藤澤 郭史

私たちは豆腐メーカーである太子食品と日光東照宮などを見学してきました。太子食品では、身近に食されている豆腐が工場どのように製造されているのかを学ぶことができました。日光東照宮では、よくテレビなどで紹介されている陽明門、三猿の神輿舎、唐門などを見学してきたのですが、特に印象に残ったのが陽明門で、動物、人、鳥、植物といった数々の彫刻が細かく丁寧に施されており、とても綺麗でした。

宿のほうでは夕食の宴会の際、遠藤君と一緒に秘密で企画したゲーム大会を行いました。クラスみんなでこんなに盛り上がったのは初めてで、宴会の後に友達から、「楽しかったよ、ありがとう!」と言われたことが、今回の学年行事日の1番の嬉しい思い出です。



太子食品工業株式会社
TAISHI FOOD INC.

● 建設環境工学科 ●

建設環境工学科 1年 太田 一央

私たち1年生は、学年行事でつくば市にある三つの施設を見学しました。

まず、地質標本館で、最新の地球科学情報に触れ多くの鉱物を見学し、サイエンス・スクエアつくばで、産総研が研究・開発した最先端の技術を体験しました。最後にJAXAの筑波宇宙センターで、ロケットや本物の人工衛星、さらにスペース・シャトルの内部を再現したものに入ることができました。

今回の施設見学で、クラスメイトと楽しみながら未知の世界を体験することができました。今後の学習と将来の進路に役立てて行きたいと思います。



建設環境工学科 3年 折笠 瞭

3年建設環境工学科は、会津に行きました。1日目は自然の家に行き、オリエンテーリングで山の中を3時間走り回り、お風呂で騒ぎ、消灯の11時には電気を消し、真っ暗の中遊んでいました。

2日目は4箇所の現場を見学しました。特に印象に残ったのは、現在建設中の橋です。40メートルほどの高さがあり、橋は傾き、揺れていました。橋まで上るエレベーターもかなり揺れていました。あまりの恐怖で泣いている人もいました。授業で学んだことを実際に現場で見ることができ、さらに現場の人の話を聞いたのでとても勉強になりました。



● コミュニケーション情報学科 ●

コミュニケーション情報学科 1年 根本 瞳

私たち、第1学年は茨城県つくば市にある3つの施設を見学してきました。

地質標本館では地球と人との関わりについて学び、サイエンススクエアでは普段なかなか体験できない科学を体感することが出来ました。筑波宇宙センターでは、実際に訓練に使われた施設や人工衛星などを間近で見ることができ、宇宙についての関心がより一層高まりました。

今回の経験を通して、普段体験できない様々な体験をすることができました。また、一人一人の将来の進路についても考える良い機会になりました。



コミュニケーション情報学科 3年 茂木 佳菜子

私たち3年コミュニケーション情報学科は1日目に東京ディズニーランドへ行きました。ただ楽しむだけでなく、なぜディズニーランドはこんなにも人気があるのかを探ってきました。すると所々にお客さんを満足させるための工夫が散りばめられていました。

2日目は美術館を二つ巡りました。現代美術や様々な和紙の展示等、普段目にするのできない貴重な展示物を見て感性を磨くことができました。この二日間は、友達との仲も深まり、勉強になったこともたくさんあったので、とても有意義なものだったと思います。



体育部

◎平成21年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上競技

走幅跳 高木 聖人 (2 K) 第3位 (東北大会出場)

■バスケットボール【男子】

1回戦敗退

■バレーボール【男子】

2回戦敗退

■ソフトテニス【男子】

団体戦 2回戦敗退

個人戦 高橋 憲正 (2 I) 柏原 伸也 (2 E) 第5位

■卓球【男子】

学校対抗 第3位 (東北大会出場) (全国大会出場)

シングルス 松本 知也 (2 I) 第3位 (全国大会出場)

佐藤 洋平 (1 I) ベスト32

桑嶋 隆 (2 M) 3回戦敗退

佐藤 勇人 (2 K) 3回戦敗退

大浦 昌也 (1 E) 1回戦敗退

高萩 航 (2 I) 1回戦敗退

ダブルス 松本 知也・桑嶋 隆 第3位 佐藤 洋平・大浦 昌也 ベスト32

■卓球【女子】

シングルス 小野 仁美 (2 I) ベスト16 (全国大会出場)

金成 亜実 (1 I) 2回戦敗退

ダブルス 小野仁美・金成亜実 ベスト8

■水泳【男子】

50m自由形 大和田瑞貴 (1 C) 棄権 吉田 周平 (2 M) 第21位

100m自由形 大和田瑞貴 (1 C) 棄権 吉田 周平 (2 M) 第21位

200m自由形 佐藤 祐樹 (1 M) 第4位 (東北大会出場)

北澤 春樹 (2 M) 第27位

400m自由形 佐藤 祐樹 (1 M) 第2位 (東北大会出場)

北澤 春樹 (2 M) 第13位

100m平泳ぎ 矢羽々寛和 (2 M) 第22位

200m平泳ぎ 矢羽々寛和 (2 M) 第18位

100mバタフライ 紺野 貴浩 (1 C) 第17位

山口 修平 (2 K) 第18位

200mバタフライ 紺野 貴浩 (1 C) 第13位

200m個人メドレー 山口 修平 (2 K) 第7位

400mリレー 第9位

400mメドレーリレー 第9位

■水泳【女子】

200m個人メドレー 鈴木 姫花 (1 I) 第13位

400m個人メドレー 鈴木 姫花 (1 I) 第9位

■空手道【男子】

団体組手 予選敗退

個人組手 中村 晃太 (2 M) ベスト8 洲崎 翔太 (2 I) 3回戦敗退 会田 崇人 (2 M) 2回戦敗退 鶴田 基展 (2 E) 2回戦敗退 第4位

団体形 中村 晃太 (2 M) 2回戦敗退 鶴田 基展 (2 E) 2回戦敗退 洲崎 翔太 (2 I) 2回戦敗退 会田 崇人 (2 M) 1回戦敗退

■バドミントン【男子】

団体 ベスト8

ダブルス 志賀 匠・佐藤 太一 2回戦敗退

シングルス 志賀 匠 (2 M) 2回戦敗退 佐藤 太一 (1 I) 2回戦敗退

◎第14回東北高等学校新人陸上選手権大会

走幅跳 高木 聖人 (2 K) 第15位

◎第33回東北高等学校選抜卓球大会

学校対抗 予選リーグ3位

◎第17回東北高等学校新人水泳競技大会

200m自由形 佐藤 祐樹 (1 M) 予選敗退

400m自由形 佐藤 祐樹 (1 M) 第3位

◎第37回全国高等学校選抜卓球大会

【男子】

シングルス 松本 知也 (2 I) 出場

【女子】

シングルス 小野 仁美 (2 I) 出場

◎東北地区高専体育大会秋田大会

ラグビーフットボール競技 第3位

◎第7回福島県高等学校秋季ソフトテニス選手権大会

【男子】

団体 予選敗退

◎第39回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会

【男子】

個人戦 高橋 憲正 (2 I) 柏原 伸也 (2 E) 2回戦敗退

◎第36回福島県ジュニアダブルステニス選手権大会

【男子】

ダブルス 佐藤 正隆 (2 C) 小竹森可廉 (2 I) ベスト32

【女子】

ダブルス 吉田 美香 (2 C) 戸井田 陽 (2 I) 2回戦敗退

◎全日本卓球選手権大会 福島県予選会

【男子】

ジュニア男子シングルス 松本 知也 (2 I) ベスト8 桑嶋 隆 (2 M) ベスト16 佐藤 勇人 (2 K) ベスト64

シングルス 松本 知也 (2 I) ベスト32 丹野 淳 (5 K) ベスト32

ダブルス 永井 一喜 (3 M) 渡辺 大樹 (3 K) ベスト16

【女子】

ジュニア女子シングルス 小野 仁美 (2 I) ベスト32 金成 亜実 (1 I) ベスト64 安島 真理 (3 I) ベスト16

シングルス 安島 真理 小野 緑 (3 K) ベスト8 猪狩 美咲 (3 C) ベスト8 安島 恵理 (3 I) ベスト8

【混合】

ダブルス 吉田 圭佑 (4 C) 安島 恵理 丹野 淳 安島 真理 ベスト16

■サイクリング部

・いわきサイクリングクラブ 「勝手にサイクリング」木戸川コース 参加

・第3回いわき市わくわくサイクリング大会 参加

■山岳部

・大滝根山登山 実施

文化部・研究会・愛好会

■吹奏楽部

・第31回定期演奏会 実施

・第37回福島県アンサンブルコンテスト クラリネット4重奏 銀賞 金管8重奏 銀賞

・第47回いわき市吹奏楽新人演奏会 参加

■将棋部

・第18回全国高等学校文化連盟将棋新人大会 福島県大会 猪狩 直也 (2 C) ベスト16 芳賀 正幸 (2 C) ベスト16 浦住 僚 (2 C) ベスト16 阿部 直樹 (2 E) 1回戦敗退

■茶華道部

・いわき学校茶道連盟第28回合同発表会 参加

■写真部

・いわき街なかコンサート in Taira ボランティアスタッフ撮影 実施

・裏磐梯紅葉撮影 実施

・いわき地区高等学校写真連盟写真展 伊藤 裕佳 (1 C) 準特選 加藤 湧亮 (3 K) 入選 栗林 沙帆 (2 C) 入選 大家 若菜 (1 C) 入選

・東北地区高等専門学校文化部発表会 写真部門 佐藤 大志 (5 M) 特選 加藤 湧亮 (3 K) 入選 大家 若菜 (1 C) 入選 伊藤 裕佳 (1 C) 入選

・古殿八幡神社 流鏝馬撮影 実施

・福島県高等学校総合文化祭写真展 参加

・高専祭『写真展』 開催

・仙台ニコン工場見学 実施

■美術部

・東北地区高等専門学校文化部発表会 絵画部門 佐々木裕香 (5 I) 特選

■ロボット技術研究会

・いわき産業祭でのロボット実演 実施

・ふくしま環境・エネルギーフェアでのロボット実演 実施

・出前講座でのロボット実演 (小野町) 実施

■天文研究部

・プレアデス食の観測 実施 (全国天文観測ネットワーク参加)

■分子生物学愛好会

・先端ものづくりチャレンジin習志野 競技部門 知能ロボット競技 岩崎 真歩 (2 C) 桑野 夏希 (2 C) 決勝進出 (辞退) ・特別賞受賞

◎アイデア対決・全国高専ロボコン2009 東北大会(鶴岡市小真木原総合体育館)

・福島高専Aチーム 「Red Beko」 馬場 将亮 (4 M) 小林 大 (4 M) 小野 裕子 (2 M) 2回戦敗退・特別賞

・福島高専Bチーム 「Hula 舞」 吉田 貴則 (4 M) 菅家 麻美 (3 M) 永山 昌輝 (2 M) ベスト4・ベストカップル賞・特別賞

◎全国高等専門学校第20回プログラミングコンテスト【課題部門】

タイトル「星の道標 -star loader-」

遠藤 周平 (5 I) 佳作

小川 豊美 (3 I)

佐藤 航太 (2 I)

【競技部門】

タイトル「MARY -Mary Auto Replace sYstem-」

松島 弘 (3 E)

江藤 奨平 (2 E) 1回戦敗退

◎全国高等専門学校デザインコンペティション2009

【構造デザインコンペティション部門】

・作品名「Rock Bridge ~岩橋の夢~」 渡辺 一樹 (3 K) 大竹 剛史 (3 K) 日刊建設工業新聞社賞 受賞

・作品名「起動要塞 JUSTICE-HAHO0」 志賀 暢 (3 K) 江尻 義史 (3 K) 本選出場

【空間デザインコンペティション部門】

上川 将彦 (5 K) 青天目英之 (5 K) 吉田 奈月 (5 K) 渡邊 祥馬 (5 K) 加藤 雅俊 (4 K) 渡辺 彩花 (4 K) 予選敗退

◎マイクロソフトイマジニカップ日本大会ソフトウェアデザイン部門

・チーム「Growing」 ・タイトル「TERAKOYA Net」 赤塚 篤 (3 E) 佐藤 貴啓 (3 E) 松島 弘 (3 E) 矢吹 明紀 (3 E) 第4位

学生表彰

特別表彰

◎TOEIC検定試験900点

モハンマド・ファウジ・ビン・モハマド・マルズキ (4 K)

ノールファラヒン・ビンディ・ルスリー (3 C)

◎平成21年度パテントコンテスト高専の部

特許出願対象選定 大久保洋輝 (4 K)

◎第六回全国高専デザインコンペティション2009

構造デザインコンペティション部門

日刊建設工業新聞社賞受賞

江尻 義史 (3 K)

大竹 剛史 (3 K)

志賀 暢 (3 K)

渡辺 一樹 (3 K)

学会表彰

◎社団法人日本機械学会 (島山賞)

永峰 陽介 (5 M)

◎電子情報通信学会東北支部 優秀学生賞

日下 和也 (5 E)

◎電気学会東北支部 優秀学生賞

小松 祐城 (5 E)

◎日本化学会東北支部長賞

長久保勝大 (5 C)

◎全国高専土木工学会 (近藤賞)

丹野 淳 (5 K)

◎社団法人全国経理教育協会 表彰

岩田 朱織 (5 I)

吉田 陽菜 (5 I)

渡邊 千尋 (5 I)

◎国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所主催

浜通り管内技術業務報告会

「コンクリートのリサイクルに関する静的

破砕剤の適応研究」

優秀賞 折笠 允紀 (5 K)

第9回「福島県中学生ロボット競技会」を終えて

県内から23チームが参加して
本校第1体育館で平成21年12月20日(日)に開催

競技会実行委員長 佐東 信司

本校主催の県内中学生を対象としたロボット競技会は第九回目を迎え、今年度から福島県教育委員会の後援を得て開催する事ができました。この企画は、中学生への「創造性豊かなモノづくり教育事業」として中学生に、モノづくりの楽しさとロボットを完成させた時の充実感を得てもらいたいとの考えから競技会を実施しています。

いわき市内の中学校を始め、郡山市、双葉郡榎葉町、岩瀬郡天栄村などから、22チームの参加予定でしたが、インフルエンザで不参加となったチームもあり、選手・指導教員共に無念であったと思います。

競技内容は1)登り坂を走行する登坂競技、2)毎年異なる応用競技です。今年の応用競技は昨年の「灯台めぐり」を継続しました。これは、昨年の選手の多くが課題を十分に達成できなかったため、再挑戦してもらうためです。しかし、今回は難易度を少し上げ、灯台に入れるゴルフボールの他に軟式野球ボールを追加しました。競技名は灯台にボールを入れて灯台を点灯させる「灯急便競技」と名付けています。この2種類の競技で、本校が提供した駆動部の規定部品等を用いて、ロボットの大きさをA4用紙以内で作製します。

開会式では初出場の緑ヶ丘中学校2年大塚拓実選手が選手宣誓しました。

◆登坂競技(基本競技)

本競技は傾斜6度の登坂を含む7mの直線コースを全速力で走行するもので、毎年実施する競技です。最近では多くのチームが10秒以内で走行するまでロボット作製技術が向上しており、今回は郡山2中Aチームが3.79秒で連勝しました。競技終了したチームは図1に示すように自慢のロボットを審査委員に特徴と苦労した点などについて説明しました。



図1 審査委員にロボットの特徴を説明する選手達

◆灯急便競技(応用競技)

いわき市の塩屋埼灯台を想定して10~30cm高さの異なる3種類(計5灯台)の灯台の頂上へゴルフボールや野球ボールを運び入れると灯台に明かりが点灯する競技です。ゴルフボールと比較すると野球ボールは大きくて重いため、1.5倍の得点を与えました。競技時間3分で、高さの異なる位置へ運び入れるにはロボットのバランスを考慮した安定性と前後左右への旋回可能な機能が必要となります。ボールをロボットに取り込む時と灯台へ運ぶ時の状況を図2に示しました。1台のロボットで高さの異なる位置へ運び入れる機構を考案することは難題であるが、全灯台に点灯すると90点満点となります。満点達成は3チームであったが、榎葉中学校が2分19秒でゴールし優勝しました。このロボットは機能性とバランスに優れていました。

総合優勝は両競技を短時間で達成した小名浜第1中学校が獲得し、県大会にふさわしい競技会でした。今大会の成績結果を表1に示します。

本競技会へ5回以上参加された指導教員(吉田彰子先生(いわき中央台北中)、高野 勤先生(小野妙奈先生(小名浜第2中))に“モノづくり教育へのご指導の功績を称え”感謝状を贈呈しました。



図2 熱戦状況と灯台へボールを運ぶロボット

表1 第9回大会の成績

総合優勝	小名浜第1中学校A		
総合2位	郡山第2中学校A		
総合3位	榎葉中学校A		
登坂競技	灯急便競技		
1位	小名浜第1中B	1位	榎葉中A
2位	郡山第2中A	2位	小名浜第1中A
3位	小名浜第一中A	3位	榎葉中B
アイデア賞			
中央台北中A、天栄中B、緑ヶ丘中A			
敢闘賞			
磐崎中A、中央台北中B、天栄中A			

「デザコン2009 in 豊田」に参加して

建設環境工学科 緑川 猛彦 根岸 嘉和 齊藤 充弘



2009年11月14日に開催されたデザコン2009 in 豊田に出場し、日刊建設工業新聞社賞を受賞しましたので報告いたします。

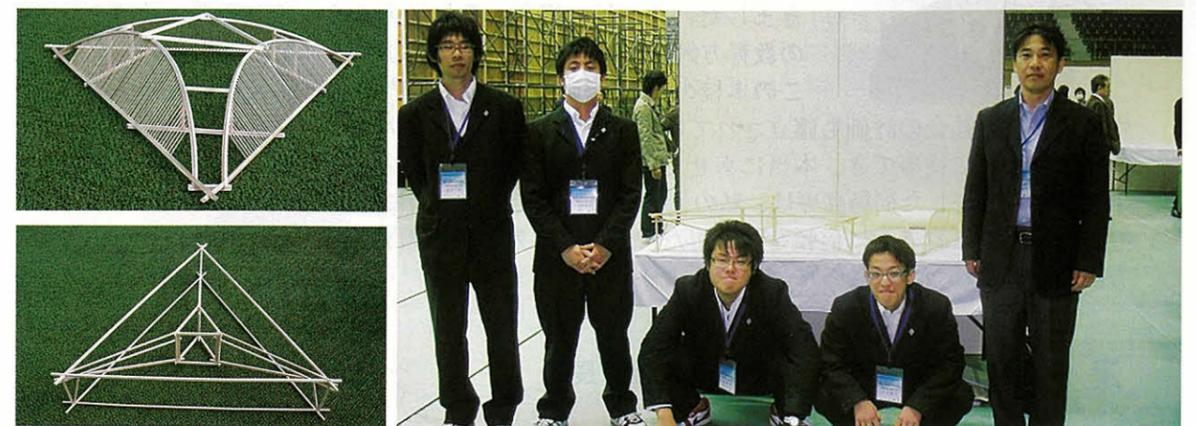
デザコンとは「全国高等専門学校デザインコンペティション」の通称で、全国高等専門学校ロボットコンテスト(ロボコン)や全国高等専門学校プログラミングコンテスト(プロコン)と並ぶ、高専における三大コンテストの一つです。今年度のデザコンは第6回目であり、愛知県の豊田高専が主管校で「やさしさ」をメインテーマとして開催されました。競技部門である、構造デザイン、環境デザイン、空間デザイン、ものづくりの4部門のうち、構造デザインと空間デザイン部門に応募し、構造デザイン部門で本戦出場となりました。

今年度の構造デザイン部門のテーマは「3点支持ブリッジコンテスト」でした。支間900mmの3点単純支持形式の構造体を、檜材(断面寸法8mm以内、長さ300mm以内)を用いて、総重量300g以内に製作し、耐荷能力とデザインを競うというものです。競技のために準備されたお

もりは200kg分でしたが、僅か300gの橋でその200kgの重量を支えることができたチームが3つもあり、レベルの高さを感じさせる大会でした。

専攻科生を含む全54チームが出場した中、本校は建設環境工学科3年生のAチーム(渡辺一樹君、大竹剛史君)とBチーム(志賀暢君と江尻義史君)が、「Rock Bridge」と「起動要塞 JUSTICE - HAH00」という作品名でエントリーしました。「起動要塞 JUSTICE - HAH00」は、耐荷能力が予想より低く総合順位が46位でしたが、「Rock Bridge」は、計算通りの耐力であったことや審査員点(デザイン点?)が最も高かったことから総合18位となるとともに、日刊建設工業新聞社賞を受賞しました。

耐荷能力の高い橋の模型を製作するためには、高度な構造力学の知識と指先の器用さが求められますが、3年生ではまだまだその域まで達していないのが現状です。それでも、夏休み返上で一生懸命作品作りに励んだことが、このような結果をもたらしたのだと思います。参加した学生に心からエールを送りたいと思います。



退職者の言葉

福島高専を退職される教職員の皆さん。
ありがとうございました。

福島高専に感謝

物質工学科 井上和人



福島高専に赴任した2年目のことである。学会発表の帰りに、東京は神田神保町の四方堂という古本屋でCondensation Polymers(John Wiley & Sons)という洋書を見つけた。著者は界面重縮合法を開発したデュポン社のDr. Morgan。当時、金欠病で苦しんでいた小生の財布の中には、いわきに帰る電車賃と少々のもものしかない。四方堂の親父さんにこの本を取置きしてもらいたいと頼んだ。店主は怪訝そうな顔をしていいとは言わない。どちらのかたですかと尋ねるから福島工業高等専門学校助手と書いた名刺を渡すと国立高専の先生でございますか。お金は後で結構ですからお持ち帰り下さいとなった。筆者を今日まで育て支えてくれた福島高専の皆様にご感謝申し上げます。

では、これからは…。

一般教科 山野和一



「計画を立てるのは人、結果を決めるのは神」というイタリアのことわざは、「人事を尽くして天命を待つ」という日本のそれに似ていながらはるかに気楽なので、それ(イタリアの方)をずーっと愛用し、座右の銘にしてみました。

では、これからはということになります。むかし高校時代に受験勉強はそっこのけで友達4、5人が集まって、「人生において“勝”とは何か」などと熱い議論をしていたとき、あるお寺の次男坊が「それは、一番長生きをしたものが勝ちということやで」の一言で、全員が「おお！」と納得し、みなそそくさと家に帰って勉強に取りかかったことが思い出されます。多分それが今後の目標に。

感謝。

一般教科 根本信行



本校は、「学業と課外活動の両立」を目指す教育を実践してきました。教職員の努力、それに応える多くの学生、及びこの教育方針を支持する保護者の協力体制を構築してきました。この本校の教育が地域の信頼を得た結果、本校には優秀な学生が集まり、社会の評価も確立されています。私は、このような社会に誇るべき福島高専の学生の教育に従事でき、本当に幸せでした。心優しい教職員と共に、そして素晴らしい学生と共に過ごした福島高専は、私の人生そのものです。本当にありがとうございました。福島高専が、これまでに信頼を勝ち得た「学業と課外活動の両立」を目指す教育に新しい方法を取り入れつつ、さらに発展するよう願っています。

退職者

○総務課企画・広報係長

薄井久美子

とびっくす

劇場映画「袴田事件」の映画撮影に協力

本校では、11月22日(日)、25日(水)の両日、いわき市活性化事業の一環として、高橋伴明監督、主演：萩原聖人さん、共演：岸部一徳さんによる、劇場映画「袴田事件」の映画撮影に協力しました。この映画は昭和の「冤罪事件」として、現在再審請求中の事件を取り上げた映画で、平成21年から施行された「裁判員制度」にもつながる内容でもあります。

本校の学生もエキストラとして、萩原聖人さん演じる大学法学部教授の講義を受ける学生役で参加しました。学生たちは少し緊張した表情で、映画スタッフの演技指導にも積極的に参加し、NGもなく、本番一発OKで撮影が終了しました。

その後、視聴覚室に場所を移して、高橋監督、萩原聖人さんを囲んでの懇談会を行いました。学生からは、さまざまな質問があり、和気あいあいムードの中、高橋監督、萩原聖人さんがユーモアを交えて答えられておりました。高橋監督が、「映画監督」になったきっかけや、萩原聖人さんが、俳優になるきっかけなど、エピソードを交えて話し、学生たちは興味津々に聞いておりました。



第15回高専シンポジウムinいわきを開催しました

第15回高専シンポジウムinいわきが、1月23日(土)に、高専シンポジウム協議会及び本校が主催となり、いわき市文化センター及びいわきワシントンホテルで開催されました。今回のシンポジウムには、北は苫小牧高専から南は鹿児島高専まで、全国から約400名の参加があり、研究発表件数は口頭発表211件、ポスター発表88件で、合計299件の発表がありました。

開会式にはシンポジウム協議会顧問・久留米高専特命教授鳥井照美氏と国立高専機構林理事長から挨拶をいただき、特別講演は「Two Fail Safeへの挑戦 国際宇宙ステーション実験棟「きぼう」を支えるチーム活動」と題して、元JAXA(宇宙航空研究開発機構)信頼性推進評価室員で、国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」チーフエンジニア山形史郎氏と、「新産業革命の中における新素材開発とは」と題して株式会社クレハ常務執行役員研究開発本部本部長紫垣由城氏より各々講演をいただきました。会場では一般市民を含む多くの聴講者が熱心に耳を傾けていました。



本校と東邦銀行が合同で産学連携セミナーを開催

本校は2月4日(木)、東邦銀行と合同で、一般企業等を対象とした合同セミナー「産学連携セミナー～『環境』と『ものづくりへの取組』～」を、郡山市のホテルハマトで開催しました。これは、本校と東邦銀行との間における連携協定の一環として実施されたもので、当日は県内各地から約160名の参加者が訪れました。

セミナーでは、まず開会の挨拶として本校 奈良宏一校長と東邦銀行北村清士頭取から挨拶がありました。その後奈良校長による基調講演「Smart Gridは日本経済を活性化できるか？」が行われました。基調講演後の第2部では本校教員の研究シーズ紹介が行われ、各学科に所属する教員各1名が、研究シーズや現在実施している研究等を紹介しました。当日は150席用意された座席も満席となり、急遽追加の席



が設けられる等大変な盛り上がりを見せ参加者の関心の高さを伺わせました。第3部では講師を囲み、終始和やかなムードで交流会が行われ、大盛況の内に終了しました。

なお、このようなセミナーは今後も開催される予定となっています。